

●玉縄の学校長

植木小学校
校長 市川昇一郎 さん



市内の小学校で長らく教鞭を取ってきた。インドネシアの日本人学校へ赴任していた経験も。三年間の市教委教育センター勤務を経て、四月より現職。

——植木小学校の印象についてお聞かせください。

子どもたちがみな元気でかわいいというのはどこへ行っても同じですが、当初はずいぶんお行儀がいいなと感じました。五月も半ば過ぎてようやく慣れてきたというか、いろいろな顔を見せてくれるようになった気がします。一日一回は全校の様子を見て回るようにしているのですが、クラスのカラーもだんだんわかってきました。たまたま四時間で授業が終わる日の下校時に校門に立ったのですが、この後誰と遊ぶとか何しようとか、楽しみでしかたないのでしょうか。みな駆け出すように帰って行くんです。先生さようなら！また明日！という声も大きくて、朝も元気ですけどまた全然違う顔。これからいろいろ行事も控えています。どんな顔が見られるか楽しみです。

——地域の印象、また地域に求めることなどはありますか。

以前玉縄小にいたこともあったり、十年ほど岡本に住んでいたこともあって、なじみ深い地域です。植木小学校は市内の小学校十六校のうち最も新しい学校で、周辺も新しいマンションなどが多いですが、それでも地域との関わりが希薄ということは全くありません。登下校の見守りに近隣の方々が立ってくださるのみならず、我々にも気さくに声をかけてくれたり、地域のあたたかさを感じているところです。ですので地域に求めることというより、むしろ学校が地域に対してどう開いていくかを考えていきたいです。

——校長先生になられて改めて思うことは。

3年間教育センターにおりましたので、こうして日々子どもたちと接する中

で、そうだった子どもたちってこうだったと実感を深めています。校長として彼らに話したのが金子みすゞさんの「みんなちがってみんないい」。違いを受け入れ差別をなくすというのは当然のことですが、子どもたちには逆を想像してみしてほしいと話しました。みんなおんなじ顔、おんなじ体、いつせいに走って同時にゴールする。すると子どもたちはおもしろくない、つまらない、こわいと言う子もいました。頭ではわかっている、特にこの日本にあっては並列の社会、違いを恐れる傾向がありますね。それでも社会は変わってきています。差別解消法もできました。学校の中からも「みんなちがってみんないい」、そういう社会を作っていけたら。今の時代を生きていく彼らに伝えたいことです。



鎌倉生まれ、鎌倉育ち。

現在も活動続ける「ムーンライトオーケストラ」でトランペットを担当。玉縄まつりで植木リトルエコーアンサンブルと共演したことも。趣味はほかにランニング。休日に走ったり、仲間とあちこちの大会に参加したりしている。好きな言葉は「Go for broke（当たって砕けろ）」。相撲好きだった中学生のころ、人気外国人力士の高見山が大切にしている言葉として知った。以来やるべきだと思ったら失敗を恐れない、理由をつけてやめる前にかくやってみる、自戒の念をこめて座右の銘としている。

校長室のドアに貼られているのは児童が行事の際に作った「校長先生クイズ」。好きな食べ物はラーメン、餃子、得意なことはマラソン。このとき実は走ることが苦手だった子ども時代のことを話した。「本当にいやだったけど、終わってみたいらしいことなかったし、やってよかった。苦手だからと逃げないでやってみること、自分の可能性をせばめないでほしいと思います。」

